



銅鐸の複製品を見ながら藤田さん(左)の説明を聞く児童たち＝坂井市大石小学校で

大石地区の歴史 地元児童が学ぶ

坂井 銅鐸やシカの伝説など

坂井市大石地区の歴史や伝説を学ぶ授業が、地元の大石小学校で開かれた。同地区まちづくり協議会の藤田芳一さん(73)が、ふるさと学習の一環として3年生37人に講義。地区で出土した弥生時代の銅鐸と、地区内のゆりの里公園にある大きなシカのモニュメントについて話した。

地区では銅鐸2個が、1868(慶応4)年に出土している。藤田さんは銅鐸について「珍しいもので村や家の宝物だったと考えら

れている」と説明。シカの由来については、九頭竜川から坂井平野に水を引く「十郷用水」が、神の使いのシカが歩いた跡を掘って造られたとの伝説を紹介した。

教室には銅鐸の複製品とシカの像が用意され、子どもたちは興味深げに見つめていた。長谷川来春さん(8)は「ゆりの里公園にはよく遊びに行く。シカが飾ってある理由を知ることができてよかった」と話していた。

(坂本碧)